



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ホウスイ

コード番号 1352 URL <http://www.hohsui.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 乃美 昭俊

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部副本部長 (氏名) 小林 留一

TEL 03-3543-3536

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	27,058	△3.1	199	△28.0	283	△19.1	144	△32.4
22年3月期第3四半期	27,918	2.3	277	8.0	350	1.4	213	△6.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	1.73	—
22年3月期第3四半期	2.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	15,041	5,434	34.9	62.64
22年3月期	11,967	5,439	44.0	62.93

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,246百万円 22年3月期 5,270百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	2.00	2.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,800	△4.0	200	△26.2	340	△11.2	175	△22.9	2.09

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 ー社（社名 ）、除外 ー社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 83,790,000株 22年3月期 83,790,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 40,400株 22年3月期 39,357株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 83,750,039株 22年3月期3Q 83,752,504株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日～12月31日）におけるわが国経済は、前半は輸出の回復や政府の経済対策効果を要因とした企業収益の持ち直しを背景に景況感の改善が見られましたが、後半に入ると経済対策効果も縮小し、一方で失業率が高水準で推移するなど雇用情勢は依然として厳しい状況であり、急激な為替レートの変動や海外経済の減速懸念などによって景気が下押しされるリスクが存在し、先行き不透明感が強まる状況となりました。

水産・食品業界におきましても、景気の低迷を背景に、消費者の節約志向が続く厳しい経営環境にありました。

このような厳しい状況のなかで、当社グループは、引き続き、冷蔵保管機能、水産卸機能やリテールサポート機能を相互に融合して協働させることにより収益の確保に努めて参りましたが、消費低迷の影響等により、売上高、利益面ともに前年同期を下回りました。その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高270億58百万円（前年同期比8億59百万円減）、営業利益1億99百万円（前年同期比77百万円減）、経常利益2億83百万円（前年同期比66百万円減）、四半期純利益は1億44百万円（前年同期比69百万円減）となりました。

なお、セグメントの業績は次のとおりであります。

① 冷蔵倉庫事業セグメント

冷蔵倉庫事業セグメントは、厚木第二物流センターの新築により、売上高は27億63百万円（前年同期比61百万円増）となりましたが、減価償却費の増加や猛暑による電力料の増加などにより経費が増加しましたため、営業利益は70百万円（前年同期比5百万円減）になりました。

② 水産物卸売事業セグメント

水産物卸売事業セグメントの売上高は、取扱数量の減少により242億95百万円（前年同期比9億21百万円減）となりました。売上高の減少ならびに競合激化にともなう売上総利益率の低下により、営業利益も1億14百万円（前年同期比86百万円減）になりました。

セグメントの業績の詳細については、「3. 四半期連結財務諸表（5）セグメント情報」をご参照下さい。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(a) 資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比30億73百万円増加の150億41百万円となりました。

流動資産は、売掛金、たな卸資産の増加等により、前連結会計年度末比28億30百万円増加の77億93百万円となり、固定資産については、冷蔵倉庫事業セグメントの資産取得により前連結会計年度末比2億43百万円増加の72億48百万円となりました。

(b) 負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末30億79百万円増加の96億7百万円となりました。

流動負債は、買掛金、関係会社借入金の増加等により、前連結会計年度末比33億24百万円増加の74億円となり、固定負債は、借入金の返済、負ののれんの償却等により、前連結会計年度末比2億45百万円減少の22億7百万円となりました。

(c) 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益が1億44百万円となりましたが、剰余金の配当等があったため、前連結会計年度末比5百万円減少の54億34百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、税金等調整前当第3四半期純利益が2億80百万円となり、仕入債務の増加や短期借入金の借入等による資金の増加がありました。また、売上債権の増加、有形固定資産取得等による資金の減少のため、当第3四半期連結会計期間末の資金は12億円（前連結会計年度末比3億75百万円増加）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は5億63百万円(前年同期は14億70百万円の獲得)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益、仕入債務の増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は6億4千万円(前年同期は16億39百万円の使用)となりました。これは主に冷蔵庫の設備投資や維持更新によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は4億53百万円(前年同期は5億34百万円の使用)となりました。これは主に短期借入金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年10月19日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 固定資産の減価償却の方法

連結会計年度に係る減価償却の額を期間按分して算定しております。

② 一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものから変動がないと認められるため、前連結会計年度において用いた一般債権の貸倒実績率を使用しております。

③ 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

なお、これによる営業利益、経常利益、及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	420	311
受取手形及び売掛金	4,853	2,628
商品及び製品	1,327	984
原材料及び貯蔵品	8	19
関係会社預け金	840	723
繰延税金資産	185	188
その他	174	127
貸倒引当金	△17	△21
流動資産合計	7,793	4,962
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,043	9,337
減価償却累計額	△6,431	△6,181
建物及び構築物(純額)	4,612	3,155
機械装置及び運搬具	2,866	2,555
減価償却累計額	△1,944	△1,814
機械装置及び運搬具(純額)	922	741
工具、器具及び備品	220	199
減価償却累計額	△151	△138
工具、器具及び備品(純額)	68	60
リース資産	206	135
減価償却累計額	△60	△31
リース資産(純額)	145	103
土地	1,166	1,166
建設仮勘定	40	1,476
有形固定資産合計	6,954	6,704
無形固定資産		
投資その他の資産	45	48
投資有価証券	81	83
長期貸付金	7	8
繰延税金資産	83	77
その他	76	82
投資その他の資産合計	249	252
固定資産合計	7,248	7,005
資産合計	15,041	11,967

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,100	2,636
1年内返済予定の長期借入金	246	334
1年内返済予定の関係会社長期借入金	130	130
関係会社短期借入金	1,100	100
未払法人税等	109	55
賞与引当金	17	72
役員賞与引当金	—	8
リース債務	42	28
その他	654	710
流動負債合計	7,400	4,075
固定負債		
長期借入金	334	497
関係会社長期借入金	281	379
退職給付引当金	981	975
役員退職慰労引当金	86	76
本社移転損失引当金	147	147
長期預り保証金	6	8
負ののれん	265	293
リース債務	103	75
固定負債合計	2,207	2,452
負債合計	9,607	6,528
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485	2,485
資本剰余金	1,222	1,222
利益剰余金	1,538	1,561
自己株式	△1	△1
株主資本合計	5,245	5,268
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	2
評価・換算差額等合計	0	2
少数株主持分	187	168
純資産合計	5,434	5,439
負債純資産合計	15,041	11,967

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	27,918	27,058
売上原価	25,406	24,725
売上総利益	2,512	2,333
販売費及び一般管理費	2,235	2,134
営業利益	277	199
営業外収益		
受取利息	8	3
受取配当金	1	1
負ののれん償却額	27	27
雑収入	65	73
営業外収益合計	102	105
営業外費用		
支払利息	23	19
雑支出	5	1
営業外費用合計	29	21
経常利益	350	283
特別利益		
前期損益修正益	8	—
貸倒引当金戻入額	—	4
特別利益合計	8	4
特別損失		
前期損益修正損	—	7
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	7
税金等調整前四半期純利益	358	280
法人税等	110	112
少数株主損益調整前四半期純利益	—	167
少数株主利益	34	23
四半期純利益	213	144

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	358	280
減価償却費	369	439
有形固定資産除却損	—	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7	△4
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	7	5
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	28	10
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△53	△55
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9	△8
投資有価証券評価損益 (△は益)	2	—
たな卸資産評価損	5	1
受取利息及び受取配当金	△10	△5
支払利息	23	19
負ののれん償却額	△27	△27
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,027	△2,225
たな卸資産の増減額 (△は増加)	43	△332
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,499	2,463
未払消費税等の増減額 (△は減少)	16	38
未収消費税等の増減額 (△は増加)	—	20
その他	331	△9
小計	1,550	612
利息及び配当金の受取額	10	5
利息の支払額	△25	△17
法人税等の支払額	△65	△36
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,470	563
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社預け金の増加による支出	△1,500	△50
関係会社預け金の減少による収入	1,100	200
無形固定資産の取得による支出	△13	△6
有形固定資産の取得による支出	△1,211	△799
短期貸付金の回収による収入	—	10
長期貸付金の回収による収入	3	0
差入保証金の回収による収入	6	6
差入保証金の差入による支出	△0	—
預り保証金の返還による支出	△27	△3
預り保証金の受入による収入	3	2
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,639	△640

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	550	1,300
短期借入金の返済による支出	△550	△300
長期借入金の返済による支出	△348	△348
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△171	△171
リース債務の返済による支出	△13	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△534	453
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△703	375
現金及び現金同等物の期首残高	2,215	824
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,511	1,200

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	冷蔵倉庫事業 (百万円)	水産物卸売事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,702	25,216	27,918	—	27,918
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	26	18	45	(45)	—
計	2,728	25,235	27,963	(45)	27,918
営業利益	75	201	277	—	277

(注) 1. 事業区分の方法は業種別の区分によるセグメンテーションを行なっている。

2. 各事業の主要な業務

(1) 冷蔵倉庫事業 水産物等の冷蔵保管

(2) 水産物卸売事業 水産物及びその加工製品の販売、リテールサポート

3. 当連結会計年度より、管理部門に係る費用を各セグメントに負担させることとした。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計会計期間の営業利益は、冷蔵倉庫事業で18百万円、水産物卸売事業で28百万円減少している。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業統括の本部を置き、水産物等の冷蔵保管及びその加工製品の販売、リテールサポートについて事業展開しており、「冷蔵倉庫事業」、「水産物卸売事業」を報告セグメントとしております。

「冷蔵倉庫事業」は、水産物等の冷蔵保管を行っております。「水産物卸売事業」は、水産物及びその加工製品の販売、リテールサポートを行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額（注）1	四半期連結損益 計算書計上額 （注）2
	冷蔵倉庫事業	水産物卸売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,763	24,295	27,058	-	27,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	50	14	64	△64	-
計	2,813	24,309	27,123	△64	27,058
セグメント利益	70	114	185	14	199

（注）1. セグメント利益の調整額の内訳は、セグメント間取引消去11百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用の額2百万円である。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。